

大阪インターナショナルチャーチ

ゲストスピーカー：ブラッドフォード・ハウディシエル

中心聖句：エペソ 2：19

2022/10/23

説教題：教会生活の反映

鍵となる聖句：

エペソ 2：19 - 「こういうわけで、あなたがたは、もはや外国人でも寄留者でもなく、今は聖徒たちと同じ国民であり、神の家族なのです。」

エペソ 5:19-20 - 「詩と賛美と霊の歌とをもって、互いに語り、主に向かって、心から歌い、また賛美しなさい。²⁰ いつでも、すべてのことについて、私たちの主イエス・キリストの名によって父なる神に感謝しなさい。」

お早うございます。OICの記念日、おめでとうございます。今日、私たちは、最初の礼拝がなされて以来、48年目を祝います。最初の礼拝が始まった時、私はここにはいませんでしたが、関西での私の最初の年に、私はOICの18回記念のお祝いに参加しました。それは、私たちの教会設立牧師が退職される年でした。その牧師は、私の最初のOIC訪問の少し前に去られました。私は彼が日本に短期滞在のために戻ってこられた数年後に、私は彼にお会いできました。当時は、都ホテルで礼拝がなされていました。私は、ここに1990年代から2000年代までの日曜日の週報のコレクションを持っています。そしてこのスクリーンに二つの週報が見えるでしょう。1990年代初期、私達の週報は、二つの聖書箇所、つまりエペソ2：19と5：19と共に都ホテルの写真が特徴となっていました。この二つの聖書箇所は、何年もの間、日曜日の週報の顔となり続けました。私は、今日のメッセージのために鍵テキストとして、その聖句に焦点を当てたいと思います。

エペソ人への手紙 2:19 - 「こういうわけで、あなたがたは、もはや外国人でも寄留者でもなく、今は聖徒たちと同じ国民であり、神の家族なのです。」

私は、メッセージを「教会生活の反映」と題を付けました。教会生活の多くの側面のための多くの聖句を皆さんと分かち合いたいと思います。それに加えて、大阪インターナショナルチャーチの歴史を少しと私個人の歴史も少し分かち合います。そのエペソ2：19は、私は本当に私の心に弾きます。その理由は、私が初めて大阪に来た時、私は、ここではよそ者であり、外人だと感じ、そしてOICで神の民と共にいられる教会を見つけたからでした。

私は、ここに「世界中の英語を話す信徒集会の名簿」というタイトルの小冊子を持っています。それは1983年に出版されました。私が最初に大阪インターナショナルチャーチを知ったのが、この本の中でした。私が20代後半で、世界旅行をするという生涯の夢をまさに実現しようとしていた時、1986年にこの小冊子を手に入れました。旅行中、日曜礼拝に参加できるようにしたいと思っていました。私は、世界旅

行中、毎日曜日教会に行けませんでした。出来る限り神の家にいるように最善を尽くしました。それは、自分にとって、何時も大切なものです。

学生時代に覚えた聖句、それはその時から、とても特別なものになっていますが、それを皆さんと分かち合わせてください。へブル人への手紙 10:24-25 - 「また、互いに勧め合って、愛と善行を促すように注意し合おうではありませんか。²⁵ ある人々のように、いっしょに集まることをやめたりしないで、かえって励まし合い、かの日が近づいているのを見て、ますますそうしようではありませんか。」

25 節をもう一度見ましょう：「ある人々のように、いっしょに集まることをやめたりしないで」 私は、教会を休むことを習慣にたくありません。事実、日曜に教会にいて、自分の兄弟姉妹と交わりを持ちたいです。そして、世界旅行中に私が見つけた注目すべきことは、私が行くどこでも同じ考えの人々を見つけることができたことでした。私が訪ねた教会で、私と同じ信仰、同じ価値の兄弟姉妹を見つけたからです。たとえ宗派を超えてもです。神の言葉に立っている伝道的な人々や、二ヶア信条にあるこれらの概要のような原理主義的なキリスト教教義に立っている人々の間にでも、宗派による意見の相違よりも、はるかに多い一致があります。

さて、私の 1986 年から 87 年にかけての世界旅行で、この「英語を話す信徒集会の名簿」は私に、色々な国の教会とつなげてくれました。しかしその旅行では、日本を訪問しませんでした。私は、その数年後に日本に来ました。そして旅行者としてではありませんでした。私は、日本に来た最初は、短期宣教プログラムでしたと、以前お話ししました。そしてその後、四国にいる団体に属さない宣教師を助けるために 1 年間、滞在しました。これらの経験の後、フルタイムの宣教師としての召しはないと感じましたが、日本が好きでしたので、1992 年に戻り、大阪に居を構え、高校で英語を教える仕事を見つけました。そのころ、大阪府に 3 つの英語の教会がありました。大阪での最初の 2 年間に、それらの 3 つを訪ねました。私が一番じっくり来たのが、大阪インターナショナルチャーチでした。OIC で私が見つけたものは、私の世界旅行中に様々な教会を訪ねた時に見つけたものに似ていました。つまり、たとえ宗派や文化が異なっていたとしても、私たちは本質的なクリスチャン教義の土台に立っています。つまり、万物の創造主であられる神、人類の罪の犠牲となる受肉した神の御子イエス・キリスト、そして信仰と実践のあらゆる事柄における私たちの最終的な権威である、神の聖く靈感を受けた書面による啓示としての聖書への信仰です。

自分の話は十分しました。次は、大阪インターナショナルチャーチの物語を皆さんにお話しすることに、しばらく時間を割かせてください。1970 年代に戻りますが、その時、大阪の地域に英語の教会はありませんでした。ピーター岡山と言う日本人牧師はそれを変えたいと思っていました。彼ともう一人、斎藤ツギオという男性は、

英語で 礼拝し交わるための場所を大阪で暮らしている海外からのクリスチャンたちに提供したいという願いがありました。彼らは、岡山牧師の友人で、アメリカに住んでいるジャック・マーシャル師と、このビジョンを分かち合うために訪問しました。ジャックさんは、日本で宣教師でしたし、短期間、関東で2つの英語の教会を牧会する経験を持っておられました。ジャック牧師は、この訪問に興奮しました。大阪を訪問し、多くの祈りの後、彼は、この新しいインターナショナルの信徒の集まりを牧会する召しを受け入れました。1974年に、ジャックさんと妻のジェリーさんは、ここに引っ越しました。そして、その年の10月13日に最初の礼拝が持たれました。彼らのために会議室を提供した、ロイヤルホテルで行われました。ジャック・マーシャル師は牧師でした。ピーター岡山師は副牧師でした。そして斎藤氏は、その最初の礼拝でオルガン演奏をしました。最初の讃美歌は「神に栄光あれ」でした。私たちは、今日、それを歌いました。OICの私の初期のころ、その讃美歌は記念日に、毎年繰り返して歌われました。そして、私たちは、今日の礼拝の始まりに、再び歌いました。

1992年、ジャック牧師はOICから退職されました。彼と妻のジェリーさんはアメリカに帰国され、3-4年後にジェリーさんは亡くなられました。1990年代の終り頃、OICの元メンバーであり、教会の秘書であった山本恵子さんと結婚されました。皆さんの多くが、ジャックさんと恵子さんにお会いになったでしょう。彼らはここにも数回訪ねてこられました。2000年の最初のころ、ジャックさんと恵子さんは、オーストラリアのブリスベンに招かれ、新しく日本語と英語のバイリンガルの教会を始める手伝いをされました。彼らは、そこに6年間おられました。それから、恵子さんの地元である尼崎に戻って来られ、もう一つのバイリンガルの教会、リジョイスを始めました。皆さんの多くが、そこを訪れたことを知っています。

さて、私は大阪インターナショナルチャーチの物語を皆さんにお話ししました。ここでの最初の頃、記念日ごとに、この話がなされたのを覚えています。この話を聞くといつも心が温まりました。と言うのはOICが私のような人々のために始められた教会だと感じたからです。クリスチャンの兄弟姉妹と一緒に礼拝し、交わる場所を探している、英語を話すクリスチャンのための。そして、最初から、多くの英語を話す日本人クリスチャンたちも同様に、OICを彼らのいるべき教会としました。誰でも歓迎します。

何年もの間、私たちの週報は大阪インターナショナルチャーチの「ビジョン・ステイトメント」を載せていました：

「イエス・キリストの生涯と愛を、文化の多様性の中で一致して示し、関西地域に滞在する外国人と日本人がキリストの救いと成長の信仰に引き寄せられるようにするために。」

これで、OICの歴史的な概略を終りにします。今日の私の説教のテーマに移りたいと思います。教会生活の様々な面を皆さんと分かち合います。そして、少し前に皆さんに分かち合った聖句から始めたいと思います。

ヘブル人への手紙 10:24-25 – 「また、互いに勧め合って、愛と善行を促すように注意し合おうではありませんか。²⁵ ある人々のように、いっしょに集まることをやめたりしないで、かえって励まし合い、かの日が近づいているのを見て、ますますそうしようではありませんか。」

これらの節から幾つかアイデアを引き出したいと思います。私はすでに1つのアイデアを述べました。25節は、一部の人々がしているように集まることをやめてはいけないと教えています。私は皆さんに、海外旅行中も日曜日に神の民とともにいたいとどれほど願っているかを伝えました。あなたが住んでいるここで地元の交わりの一員になることがどれほど重要であるか。それが教会生活の最初の側面であり、今日のメッセージで強調したいのは、一緒に集まることをやめないでくださいと言うことです。教会出席をやめてはなりません。なぜなら、私たち一人一人がクリスチャンコミュニティの積極的な一部になる必要があるからです。あなたの教会はあなたを必要としています...そして、兄弟姉妹の交わりが必要です。

25節を見てください。教会生活の第二の側面として強調したいのは、私たちが互いに励まし合うことです。だからこそ、私たちはクリスチャンコミュニティで活発になる必要があるのです。教会は家族であり、霊的にも情緒的にも互いに支え合う必要があります。エペソ2章に記されているように、わたしたちはもはや見知らぬ人や外国人ではありませんが、神の家族の一員であり、神の家族の一員であり、主とともに歩むときに互いに励まし合うべきです。

OICの教会則から読んでみましょう。これらは規則の最初の言葉です。「前文:大阪地域に住む英語を話すプロテスタントのクリスチャンのグループは、イエス・キリストに従う者たちが相互の励まし、公の礼拝、積極的な奉仕のために交わりを交わすことが神の御心であると信じて、団結して大阪インターナショナルチャーチを組織しました。…」

私たちの教会の設立者は、イエス・キリストに従う者達は、3つの目的のために結び合うべきことが神の御心だと信じていました。互いの励ましのため、公の礼拝のために、活発な奉仕のために。私は、今日のメッセージの中で、これらの3つのテーマに触れます。今、互いに励ましあうことのテーマを続けます。

今日のメッセージの最初に皆さんにお見せした最初のOICの週報に、エペソ5:19 - 20からの引用文があります—「詩と賛美と霊の歌とをもって、互いに語り、主

に向かって、心から歌い、また賛美しなさい。²⁰いつでも、すべてのことについて、私たちの主イエス・キリストの名によって父なる神に感謝しなさい。」

関連聖句であるコロサイ人への手紙 3:16 – 「キリストのことばを、あなたがたのうちに豊かに住ませ、知恵を尽くして互いに教え、互いに戒め、詩と賛美と霊の歌とにより、感謝にあふれて心から神に向かって歌いなさい。」

エペソで、私たちは詩と賛美と霊の歌を互いに言うと言われています。コロサイでは、詩と賛美と霊の歌によって、互いに教え戒めあう言っています。ここには、私が強調したい教会の生活の3番目の側面があります：互いに教えあい戒めあう。互いに教えること、戒めあうこと、励ますことは、教会生活、集会生活の重要な特徴です。そして私たちは、そうする時、神の言葉を用います。コロサイで「キリストの言葉を、あなたがたの内に豊かに住ませ…」 – 私たちは聖書の言葉を読み、聞き、そして言葉を私たちの内に満たし、そしてその言葉によって私たちを教え、私たちを変えさせるべきです。わたしたちは、いつもクリスチャンの命の中で学び、成長している必要があります。そして、時々私たちは、正しい道を歩み続けるために私たちを戒めてくれる仲間のクリスチャンたちが必要です。なぜなら、私たちの誰も従順において完全ではなく、行動においても完全ではないからです。私たちは、キリストの弟子です。そして「弟子」という言葉を見る時、「訓練」という言葉に関連することに気が付きます。私たちは、キリストに従う者としてどのように生きるか訓練される必要があります。そしてエペソとコロサイからの引用文で、「詩と賛美と霊の歌」が詩編で見る様々な種類の歌への言及のように見えます... しかしパウロのここでの言葉は、新約聖書時代のクリスチャンたちが作った賛美の歌をも言及しているかもしれません。神の言葉と教会の歌の両方は、神の民にとって教え、戒める資源となります。

ここにもう一つの聖句、箴言 27:17 があります – 「鉄は鉄によってとがれ、人はその友によってとがれる。」別の英語訳(NKJV)では、この節をわずかに異なる方法で表現しています – 「鉄が鉄を研ぐように、人は彼の友人の顔を洗練させる」。友人の顔を洗練させる。互いに励まし合い、戒めし合うといなさいということに従うとき、わたしたちは互いに研ぎ澄まされ、互いの表情を研ぎ澄ましていきます。同胞のクリスチャンに対する私たちの言葉が、彼らの生活と主と共に歩む人生を築き上げ、明るくする言葉となることを願っています。数ヶ月前のメッセージで、私は年をとるにつれて、私の人生全体が私の周りの人々の生活に否定的な影響ではなく、より肯定的な影響を与えることを願っていると話しました。なぜなら、私は過去の経験から、不機嫌になり、不平を言い、人々に否定的なコメントを言うことがどれほど簡単かを知っているからです。お互いに前向きに言葉を交わしましょう。

ローマ人への手紙 14:19 – 「そういうわけですから、私たちは、平和に役立つことと、お互いの霊的成長に役立つこととを追い求めましょう。」

1テサロニケ 5:11 – 「ですから、あなたがたは、今しているとおり、互いに励まし合い、互いに徳を高め合いなさい。」

エペソ 2:19 に戻りましょう – 「こういうわけで、あなたがたは、もはや他国人でも寄留者でもなく、今は聖徒たちと同じ国民であり、神の家族なのです。」もし、皆さんがこの句の背景を読むなら、彼の言わんとすることは、異邦人は、今や神の御計画に含まれています。それは、約束のメシアは、ユダヤ人同様に異邦人のためでもあるということです。18節は次のように言っています。「私たちは、このキリストによって、両者ともに一つの御霊において、父のみもとに近づくことができます。キリストを通してユダヤ人も異邦人も今は、御霊によって父なる神に近づく手段を持っています。

1コリント人への手紙 12:13 を見ましょう – 「なぜなら、私たちはみな、ユダヤ人もギリシヤ人も、奴隷も自由人も、一つのからだとなるように、一つの御霊によってバプテスマを受け、そしてすべての者が一つの御霊を飲む者とされたからです。」キリストに信仰を置く全ての人是一个の体です。ですから、ユダヤ人とか異邦人、奴隷とか自由人、全ては一個の体にするところの、一個の御霊に近づく手段を持っています。

ガラテヤ人への手紙 3:28-29 – 「ユダヤ人もギリシヤ人もなく、奴隷も自由人もなく、男子も女子もありません。なぜなら、あなたがたはみな、キリスト・イエスにあって、一個だからです。²⁹もしあなたがたがキリストのものであれば、それによってアブラハムの子孫であり、約束による相続人なのです。」

これが、私が強調したい教会生活の 4番目の側面 です。あなたがユダヤ人か異邦人かは問題ではありません…あなたの社会的地位が何であるかは問題ではありません…あなたが男性か女性かは問題ではありません。キリストに信仰を置く全て的人是神の家族の平等に価値があるメンバーです。 – 私たちもアブラハムの子孫に与えられた約束の相続人にされています。

コロサイ人への手紙 3:11 – 「そこには、ギリシヤ人とユダヤ人、割礼の有無、未開人、スクテヤ人、奴隷と自由人というような区別はありません。キリストがすべてであり、すべてのうちにおられるのです。」もう一度：ここでは、神の新しい契約の民の間で、古い分け隔ては消え去りました。人種や社会的地位は関係ありません。

そして、今同じ章の 12 から 14 節を読みたいと思います。私が強調したい、教会生活の次の側面を見るでしょう。: 神の民を特徴づける、ある特徴的な性質です。

コロサイ人への手紙 3:12-14 – 「それゆえ、神に選ばれた者、聖なる、愛されている者として、あなたがたは深い同情心、慈愛、謙遜、柔和、寛容を身に着けなさい。¹³ 互いに忍び合い、だれかがほかの人に不満を抱くことがあっても、互いに赦し合いなさい。主があなたがたを赦してくださったように、あなたがたもそうしなさい。¹⁴ そして、これらすべての上に、愛を着けなさい。愛は結びの帯として完全なものです。」

私たち - 主イエス・キリストなるメシアに熱心に受け入れているユダヤ人も異邦人も - 神の選びの民です。彼は私たちを愛しておられます。そして私たちは、「聖い」と呼ばれています。 - この言葉「聖い」は「分離する」の意味です。... 私たちは、この世の残りのものから分離され、今は神に捧げられているのです。

そして、私たちを印付ける、ある特徴的な特質をここで見ます。あわれみ、親切、謙遜、優しさ、忍耐、赦し、そして愛。

もう一度 13 節を見ます。「互いに忍び合い、だれかがほかの人に不満を抱くことがあっても、互いに赦し合いなさい。主があなたがたを赦してくださったように、あなたがたもそうしなさい。」互いに忍び合う - 私たち皆、不完全です。そして時々互いにイライラさせますが、互いに忍び合わなければいけません。そして互いに赦しあうことです。これはクリスチャンのメッセージとして重要です。

次の箇所は、私の妻が、日本語翻訳中に、皆さんのために書き加えました。もしあなたが誰かに傷つけられたとして、その傷を癒して欲しいと神に祈ります。でもあなたが神にその癒しを祈っても、癒されないと感じる場合があります。神の教えは、主の祈りにあるように「私たちの負いめ（罪）をお赦しください。私たちも、私たちに負いめのある人たちを赦しました（マタイ 6:12）」とあるように、まず自分が先に相手の負い目を赦さなければなりません。たとえ、相手が悪くてもです。癒されないなら、本気で相手を赦そうとしないからです。本気で、赦す決心をすれば、後は聖霊が後押ししてくれます。その時、心の傷は癒され、心は晴れ晴れとします。その悪い出来事を思い出しても心に痛みはありません。これが本当の「赦し」だと思います。先月、赦しのメッセージでお話ししたように、赦しは双方に祝福をもたらします。新しい道を開いてくれます。赦しは癒しをもたらします。人間関係だけでなく全てにおいて。

コロサイ3章に戻りましょう。愛。私たちは愛によって特徴付けられています。14節「そして、これらすべての上に、愛を着けなさい。愛は結びの帯として完全なものです。」にあるようにすべきです。愛と一致

ヨハネによる福音書 13:34-35 でイエスは言われます - 「あなたがたに新しい戒めを与えましょう。あなたがたは互いに愛し合いなさい。わたしがあなたがたを愛したように、そのように、あなたがたも互いに愛し合いなさい。³⁵ もしあなたがたの互いの間に愛があるなら、それによって、あなたがたがわたしの弟子であることを、すべての人が認めるのです。」これは、キリストに従う者の世界を語っている特徴です：互いに愛し合う。

これらの特徴の資質のそれぞれについて、もっと多くのことが言えますが、私は私のメッセージの次の部分に移りたいと思います。先ほど、教会則の冒頭の行で、OICの設立者たちは、イエス・キリストに従う者は、相互の励まし、公の礼拝、積極的な奉仕という3つの主要な目的のために一緒に働くべきであるという声明を表しました。私は最初のものについて多くのことを言った...次に、他の2つに進みましようが、これについては簡単に説明します。

私が、強調したい教会生活のもう一つの側面は公の礼拝です。私の神学の教科書の一つから2-3の文章を引用してこのトピックを紹介しましょう：*the Lexham Theological Wordbook*. 「礼拝」という記事の中で言われている事があります。

初代教会の礼拝の典型的な描写は、長く使徒の働き2章42節でした。…他の報告は、初代教会の礼拝が献金、歌、そして聖霊の感じられる臨在が含まれていたことを示しています。(1コリント16:1-2; エペソ5:19; ガラテヤ3:1-5). 礼拝は、人生の全てが神への従順の中で生きることを含んでいました (ローマ12:1-2)。... この礼拝は、様々な種族、言葉、国の人々が、創造物の残りと共に、小羊の御座の前で礼拝する時、その完成を見出すでしょう。(黙示録5:11-14). (Esau McCaulley, “Worship,” ed. Douglas Mangum et al., *Lexham Theological Wordbook, Lexham Bible Reference Series* (Bellingham, WA: Lexham Press, 2014).)

黙示録第5章への最後の言及は、聖書の私の好きな箇所の一つであり、父なる神と、あなたや私のようなあらゆる部族、言語、国の人々を贖った神の小羊イエス・キリストへの賛美と礼拝の記述です。わたしはその聖句が大好きですが、今日は読みません。今の時と場所での教会生活を見て見ましょう。私の最初の引用文は「初代教会の礼拝の典型的な描写は、長く使徒の働き2章42節でした。」その聖句を見て見ましょう。

使徒の働き2:42 - 「そして、彼らは使徒たちの教えを堅く守り、交わりをし、パンを裂き、祈りをしていた。」初期のクリスチャンたちは一緒に集まっていた時、彼

らの集まりには、これらの4つの部分が構成されていました。1)使徒たちの教えを堅く守る、2)交わりをする、3)パンを裂く、そして4)祈り 「パンを裂く」ことは聖餐式と、そしてしばしば食事も共に分かち合っていたことに触れています。(1コリント11章にその事について更に見ることができます)。祈りはユダヤ人の寺院では、礼拝の重要な特徴でした。そして現在に至るまで、クリスチャン礼拝において重要な特徴です。そして礼拝 - 必須。今日のメッセージの最初に私がお話ししたほとんどは、どの様にして私たちは互いに励ましあい戒め合うかについてでした。そしてご存知のようにOICでは、礼拝後に3階で「交わりの時」をいつも持ちます。-この最近のコロナ禍にあって、以前していたようにスナックや飲み物をいただけないけれども、それでも私たちは共に会話の時を持ちたいのです。そして42節は、初期のクリスチャンたちが「使徒の教えを堅く守り（絶えず）」ことを最初に語っています。教会の集まりで教えることの側面は、何時も礼拝の重要な特徴です-聖書を読むこと、説教や短い訓戒の形で、それについての教えに耳を傾けること。

さて、私の説教の最後の部分に行きます。私が強調したい教会生活の最後の側面は、教会則の中にあります：「積極的な奉仕」 私たち皆は、教会であるキリストの体の中であるべき部分を持っています。その役割が大きいか小さいかに関わりなく。私たちは皆、教会のある場所で奉仕するために神から賜物を与えられています。各部品は重要であり、あなたの部分が小さく見えたり、重要ではないと思われたりする場合でも心配しないでください - 夫々の仕事は、神によって評価されますし、教会生活に必要なのです。皆さんは、この話を私から以前聞いたことがあるでしょう。そして「奉仕の場所」という題の私の以前の説教を見ることをお勧めします。

1コリント人への手紙12:4-7を見て見ましょう - 「さて、御霊の賜物にはいろいろの種類がありますが、御霊は同じ御霊です。⁵奉仕にはいろいろの種類がありますが、主は同じ主です。⁶働きにはいろいろの種類がありますが、神はすべての人の中ですべての働きをなさる同じ神です。⁷しかし、みな益となるために、おのおのに御霊の現われが与えられているのです。」

11節 - 「しかし、同一の御霊がこれらすべてのことをなさるのであって、みこころのままに、おのおのにそれぞれの賜物を分け与えてくださるのです。」

様々な賜物がありますが、神の教会の民にこれらの賜物を与え、神の御心に従ってそれぞれの人に配分されたのは、同じ神、おなじ主イエス、同じ聖霊です。そして、その目的は「皆の益となるため」です-あなたは一つの賜物を得ますが、あなたはキリストの教会全体の益のために、それを用います。

13節を読みましょう－「しかし、同一の御霊がこれらすべてのことをなさるのであって、みこころのままに、おのおのにそれぞれの賜物を分け与えてくださるのです。」

27節－「あなたがたはキリストのからだであって、ひとりひとは各器官なのです。」

私たちは皆、異なる背景から来ていますが、一つの聖霊によって力を与えられた、キリストの体の部分です。この体が正しく機能するために、夫々のメンバーは自分の部分を働かせる必要があります。各自は尊重され、各自は重要です。皆さんのための、私の今日の最後の訓戒は、私たちにそれをするために力を与えてくださる聖霊に頼りつつ、キリストの体が十分に動くのを助けるために、あなたの教会であなたが出来る奉仕の場を見つけることです。

日曜日の週報にある OIC の「ビジョン・ステイトメント」を引用して、今日の説教を終わりにします。

「イエス・キリストの生涯と愛を、文化の多様性の中で一致して示し、関西地域に滞在する外国人と日本人がキリストの救いと成長の信仰に引き寄せられるようにするために。」

皆様に神の祝福がありますように。

OIC の皆さん、記念日、おめでとうございます！ Happy Anniversary, OIC!